

皆さん、新年あけましておめでとうございます。

新しい年の始まりとともに、三学期の始業式を迎えたことを大変うれしく思います。冬の冷たい空気の中にも、どこか新しい風を感じるこの季節。皆さんの表情にも、新たな決意と希望が宿っているように見えます。

さて、今年は「午年」です。馬は、力強く駆け抜ける姿から「前進」や「挑戦」の象徴とされています。昨年秋に放送されたドラマ『ロイヤルファミリー』では、目黒蓮さん演じる若者が、父の遺志を継いで馬主となり、数々の葛藤を乗り越えて、勝利を手にする姿が描かれていました。血統や過去に縛られることなく、自分の信じた道をまっすぐに進むその姿は、私たちに「本当の強さとは何か」を問いかけてくれました。一方で、勝利とは違う形で人々の心を打った馬もいます。高知競馬で走り続けたハルウララという牝馬は、113戦して一度も勝てませんでした。それでも彼女は、どんなに負けても諦めず、ひたむきに走り続けました。その姿は「負けてもいい、でも立ち止まらずに前を向こう」と、多くの人に勇気を与えました。結果だけではなく、努力し続けることの尊さを、私たちは彼女から学ぶことができます。

馬が美しく走るとき、それは心と体がひとつになった瞬間です。無理やりではなく、自らの力を信じて風を切って走るからこそ、私たちはその姿に感動するのです。人もまた、自分の信じた道を誠実に歩むとき、最も美しく輝けるのではないかでしょうか。

三学期は、令和7年度の締めくくりであると同時に、新しい学年や進路に向けての準備期間でもあります。3年生の皆さんにとっては、残りわずかな高校生活の中で、やり残したことはないか、自分を信じてこれまでの努力を力に変えられているかなどについて振り返りながら、有終の美を飾ってください。1・2年生の皆さんにとっても、この学期は自分を見つめ直し、次のステップへとつなげる貴重な時間です。日々の学びや部活動、友人との関わりの中で、自分の可能性を広げていってください。

最後に、どんなに小さな一歩でも、前に進むことに意味があります。目立った成果が出なくても、着実に成長に向かって歩むことが、やがて大きな力となります。どうかこの三学期も、自分らしく、誠実に歩みを進めてください。

それでは、令和8年が皆さんにとって実り多き一年となることを心から願い、式辞といたします。

令和8年1月8日

愛媛県立野村高等学校長 松井 由紀子